

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4390800128 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 三森会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ほたるの里 | | |
| 所在地 | 熊本県山鹿市久原5623-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年11月5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年1月5日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構 |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 |
| 訪問調査日 | 平成26年12月2日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から4年目を迎え、高齢化や重度化に伴い、往診(2回/月)・訪問看護(1回/週)・訪問歯科(1回/週)・薬剤管理指導(2回/月)も受けながら、継続的な医療連携を図っている。夏祭りや調理教室を開催し、地域の方や家族との交流も深めている。また、「当施設に入れてよかった」「自分の家族もここにお願いしたい」と思っていたようなホームとなるよう、より質の高いケアを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

変わらぬ職員による継続したケアがこの一年も展開され、地域の人びとの絶大な後押しが推進会議やホーム行事に活かされている。会議には行政をはじめ、多くの家族や地域サポーターの参加が得られていることは特筆される点である。今年度は職員の提案により、ミーティング時間の見直しや家族の要望を受け、職員の顔写真をボードに掲示するなど意見の反映が運営に活かされ、家族からも好評である。ホームの美化に関しては専任の職員を2名配置し、365日過ごしやすい環境を整え、入居者に居心地のよい空間を提供している。また、外出支援では家族の協力や地域ボランティアの支えが心強く、入居者の日常が更に豊かなものとなっている。今後も、地域の中で豊かな時間を過ごせるホームであることに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務室に事業所の理念を掲示し、申し送り時にスタッフ全員で唱和し理念の共有を図っている。 常に、理念にそった介護にあたるよう努めている。 | 開所時からの4項目の理念は継続され、運営推進会議の席でも説明が行われている。 また、職員の共有として、今年度から職員数の多い午後の時間にミーティングの中で唱和されている。玄関や事務所に掲示された理念は目につきやすく、常に理念に沿ったケアの実践に活かされている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域での清掃活動や学校・保育園との交流を大切にし、ホームでの活動・行事への参加の声かけを行っている。また、夏祭りや野外活動に近隣ボランティアの協力を得ている。 | 地域の中のホームとしての運営は、開所時から重要な項目としてあげられ様々な交流が継続されている。清掃活動や地域祭りへの参加、保育園児との交流は年4～5回行われ、入居者の笑顔を引き出し、心待ちにされていることが聞き取りや写真からも確認された。管理者は地域の方の支えやボランティアの協力に感謝を語ってる。 | 今後は地域の小・中学校生の福祉体験の受け入れなど、ホームにできる地域貢献にも尽力されることに期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 保育園との交流会や事業所の行事等近隣の方へ参加の呼びかけを行い、認知症の理解や協力を得られるように活動している。今年度は地域で徘徊者声かけ模擬訓練を実施する予定。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議にて利用状況や活動などの報告を行い、意見や助言を参考にして、サービスの向上に努めている。 | 定期的に行われる会議は、行政や地域のサポートリーダーや多くの家族参加が得られており、記録も詳細にまとめられている。防災対策の一つとして会議の中で、マニュアル変更の提案がなされるなど有意義な会であることが確認された。今後も推進会議をサービスの向上に反映させていきたい意向である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域包括支援センターより運営推進会議に毎回参加して頂き、市の介護保険や認知症についての取り組み及び活動状況の説明を受けている。また、市の長寿支援課へ直接出向いたり、電話やメールにて連絡を取り、相談・助言を頂いている。 | 運営推進会議には行政より毎回参加が得られており、介護保険をはじめとした情報や取り組みの報告を受けている。また、管理者は行政へ直接足を運んだり、電話やメールなど内容に応じて連絡を行い、適宜指導やアドバイスをホーム運営に活かしている。今後も行政との連携を図りながら、地域福祉に貢献していきたいとしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての勉強会を行い、身体拘束をしないケアに努めている。 | 拘束に関するホーム内研修の際は、職員が担当者となり身近な内容を取り入れながら実施されている。職員の口調が強いと、入居者も不安となり失礼にあたり、管理者は基本に戻って指導を行っている。センサーマットについても、転倒したらすぐに使用するのではなく、他に対応策がないか検討を行い、使用しても必要・不必要を常に検討し、家族へも経過を報告している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定例会議やミーティングの時に虐待について学ぶ機会をもうけている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 社会福祉協議会から専門職の講師を招き、権利擁護や成年後見制度についての研修会を開き、理解を深めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前は施設見学で、建物の構造や雰囲気を感じてもらっている。契約時は、重要事項や契約書について丁寧な説明を行い、納得いただいたことを確認してから同意をお願いしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見や要望をいつでも出していただけよう玄関内に意見箱を設置している。面会時には家族と話す時間を設け、意見や要望を聞くように努めている。 | 家族の意見や要望は家族会や面会時に顔を見て直接話を聞くように努めている。入居者へは日頃の関わりの中で、ホームで何をしたいか？何を食べたいか？など生活に密着した分かりやすい選択肢を投げかけ、地元老人会への送迎や好みの食べ物を提供するなどの対応が行われている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日のミーティングや月1回の定例会議では、自由に意見を出し合える雰囲気を作り、職員からの要望は、早急に解決できるようにしている。ホーム内で解決できないことは、母体の事務主任や法人代表と話し合い改善するようにしている。 | 職員の意見や提案を運営に活かす事を管理者は心がけ、ミーティングや月1回の会議の中で、積極的な発言を求めている。また、申し送りノートを活用した意見・提案の収集や共有の徹底が行われている。今年度は、勤務時間の見直しにより、業務の効率化や働きやすい職場環境の整備に繋がっている。また、職員の病欠もなく、管理者はお互いの支え合いや連携を語っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格所持者は、給与に反映され、やりがいとなり、職員の努力・向上心につながるように評価している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修の参加費負担や勤務シフトの調整を行い、研修に参加する機会を作り、ケアの知識と技術の向上に努めている。研修には、より多くの職員が参加できるよう配慮している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 山鹿・菊池ブロックの定期的な研修会や親睦会に積極的に参加し交流を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前には必ず面談を行い本人と話す機会を設け、安心感を持って頂けるよう配慮している。居宅や施設・病院を訪問し情報を得るようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の面談や重要事項を説明する時に困っていることや要望等を詳しく聞き、初期段階から信頼関係を築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービスを導入する段階で本人・家族と面談を行い、他のサービスが必要であればそれに応えられるよう対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一緒に暮らしているという気持ちを持って、1人ひとりの能力や機能に応じてできることをして頂き共同生活の一員として支え合う関係作りを行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族に行事への参加・協力をお願いし、交流を深めていくことで入所後の状況も理解して頂き、良い関係を築けるように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会時ゆっくりとした時間と会話ができるように自室で共有できる時間を設定したり、老人会・法事など参加の希望があれば、家族と調整し参加して頂いている。 | 入居者がこれまで大切にしてきた人や場所、時間など会話や生活歴から把握し、可能な限り継続できるようにしている。家族の訪問時は居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮し、次回の来訪を促している。また、高齢になられた方々にとって、新年を迎えるということは何よりのことであり、正月の帰省や短時間の外出でも無理のない範囲で働きかけている。 | 間近に茶畑があり、入居者と一緒に茶摘みが出来ることも一つの特徴である。茶畑の管理は大変であろうが、今後も入居者にとって昔ながらの茶摘みを継続していただきたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ゆっくり出来るような雰囲気作りに努めるとともに、それぞれの居場所を大切に、トラブルが起きないように配慮している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後もその後の状況を確認し、相談や支援に努め、入院された方は面会に行き家族と共に精神的フォローに努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の希望や意向を重視しているが、自分で意思表示のできる方が少なくなってきている。意思表示が困難な方は、表情や行動などから、本人の思いをくみ取るように努めている。外出・外泊・電話等の希望があれば、家族と相談の上、要望に沿えるようにしている。 | できる限り本人の思いや意向を把握し、日々の支援に活かしていきたいが、困難な入居者が多くなっているのが現状である。そのため職員は日頃から入居者への寄り添いや表情から、その方の今の思いを察するように心掛けている。また、家族との連携も重要視し、来訪時や電話連絡の際は、代弁者とし尋ねながら本人本位の検討を行っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 面会時に家族から本人の生活歴・趣味等の情報を得て、これまでと同じような生活の援助が断続できるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 受け持ち担当を中心に、利用者一人ひとりの一日の過ごし方を把握している。少しの変化や、新たな発見があった場合は、毎日のミーティングで検討し、個人記録や日誌・申し送りノートにて、情報の共有ができるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 各担当でプランの評価・再アセスメントを実施し、月一回の定例会にて全員で介護計画の見直しや、状況の変化があった場合の支援の見直し等行っている。 | 一人ひとりの現状に即した支援ができるよう、本人・家族の意向をもとに職員の気づきや提案を活かしたプラン作成が行われている。見直しは入居して3ヶ月で1度、その後は基本的に6ヶ月ごとに行われている。計画作成担当者は、本人のできることを可能な限り支援し、家族や関係者との関わりが途切れることのないよう取り組んでいきたい意向である。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録・申し送り・昼のミーティングなどでスタッフからの情報を共有し、問題解決を早急にできるように努め、利用者の支援や介護計画の見直しにつなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者の現状に合わせて福祉用具を使用したり、家族の現状把握に努め通院の支援などを行なっている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 保育園との交流や地域の行事にも参加し、ホームの行事には地域の方の参加や協力を得ている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 毎日健康状態の観察を行い主治医に報告し、必要時には職員が同行し外来受診をしている。受診後には家族に報告をしている。 | 緊急時対応や定期受診サポートの面から全員が法人の医療機関をかかりつけ医とし、今夏より月2回の訪問診療となり、入居者の健康支援の充実が図られている。受診前後にはタブレットでも医師とやり取りが可能であり、入居者の近況が共有されている。また、他の医療機関受診については、家族へ報告を行い、同行が困難な場合はホームでも対応している。夏祭りには訪問歯科職員も参加するなど、日頃のホームとの信頼関係が窺える。 | 管理者は自身の体調が悪いことを認識できない入居者もおられることから、職員の日頃の関わり的重要性を語っている。今後も、一人ひとりに応じた健康観察の継続に期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日の健康状態の観察により異常があれば、病院看護師や訪問看護師に相談し、早期対応が出来るようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は主治医や看護師に現在の服薬状況やホームでの心身の情報を提供し、その後の経過は面会時や電話などで情報交換に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 当グループホームとしては「看取り」はしておらず、入居の契約時に説明理解を得ている。重度化した場合病院で診て頂いている。 | 指針は設けているが現時点では看取り支援はおこなっておらず、ホームで対応できるギリギリまで支援し、職員のスキルアップに努力している。 | 指針の中に、重度化や終末期支援についての職員の心構えについて記されている。現在はギリギリまでの支援に努めており、今後も縁あってホームを利用された入居者・家族の最終の場面を支える事に誇りを持って日々のケアにあたっていたきたい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルを作成してしる。年1回は、消防署の救急隊から心肺蘇生法やAEDの使用方法について指導を受け、職員全員が緊急時に適切な対応ができるような体制作りを努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 緊急時マニュアルに基づき、年2回の訓練を実施し地域住民にも参加して頂いている。夜間想定火災訓練も行い、初期消火・避難訓練・消火器の取り扱い操作を全スタッフが迅速に対応できるように継続的な訓練を実施している。 | 新人職員を中心にした非常通報装置訓練や訓練へ地域の方の参加を依頼するなど、有事に備えた訓練が昼・夜を想定して実施されている。職員は地域消防団に戸別訪問訓練への参加依頼を行うなど、協力体制の必要性を全員で共有している。夜間対応の防火訓練の手順の見直しについては、推進会議や消防署からもアドバイスや指導を受けており、改善していきたいとしている。備蓄については、法人と連携し確保しており職員も周知している。 | 交流センターで行われた行政による土砂災害時の対応などについての説明会に管理者が参加しており、自然災害対応のマニュアルの必要性を語っている。取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 尊厳の重視を理念に掲げ、言葉かけや対応で不愉快な思いをされることがないように、1人ひとりの人格に配慮したケアに心がけている。 ユマニチュードの技法を、全職員がDVDで学び、実践に活かすよう努めている。 | 理念に「尊厳のある生活」の重視を掲げ、会議などで共有が図られている。また、外部で開催された介護職員の接遇力アップ講座への参加者による復講や、ホーム内でも接遇に関する月目標が職員の意見を取り入れ決定されている。守秘義務については入職時や日々の業務の中で周知徹底を図り、離設者検索マニュアルの作成など、入居者の個人情報使用の際は家族の了承が得られている。 | 入浴時の同性介助へは要望に対応しているが、今後は何かの機会に全員に確認されることも必要と思われる。また、言葉使いや身だしなみなど、接遇に関する振り返りシートなどを作成し、自身で確認を行うことで気づきが生まれると思われる。取り組みに期待したい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の関わりの中で、本人の意向を確認したり、選択できる場面を作るようにしている。レクリエーションについても、月間計画は立てているが、参加の有無は、本人の意思を尊重している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 全体としての一日の流れはあるが、日中の過ごし方などは利用者の意向を取り入れ、利用者の気持ちを最優先に考え強制的に促すことはしていない。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時に一緒に身だしなみを整え、季節に応じた服装を選んで頂いている。散髪は2ヶ月に1回美容師に出張してもらい身だしなみを整えている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | できる方に野菜の皮剥きや、後片づけなどを手伝って頂いている。又、ホームの菜園で収穫した野菜や、近隣からいただいた野菜も調理に使用し、季節感が味わえる食事の提供を行っている。 | 日常の食事は法人管理栄養士の作成した献立にそって調理を行っているが、週2～3回は法人のレシピを参考にした自由メニューが好評である。希望の料理を取り入れた誕生会は、家族の都合に合わせて日程が組まれるなど、入居者・家族の喜びを支援したいとするホームの思いが伝わってくる。入居者は下膳や保存食作りなどできることで食への関わりを支援している。また、料理やお菓子作りでは職員の得意分野が活かされていることも更に楽しい食を提供している。訪問当日も手作りメロンパンと好みの飲み物で午後のおやつが進められていた。 | 季節の良い日は駐車場での屋食など職員の工夫ある支援が確認された。ホームには茶畑もあり、入居者と一緒に茶摘みが行われており、庭や玄関先で「新茶会」など季節を味わう取り組みも一案と思われる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量を毎回記録・チェックし、栄養状態に合わせた分量を心がけている。水分摂取は定時に行うとともに必要に応じて水分補給をしている。 法人全体の栄養委員会に参加し、メニューの検討や管理栄養士からの指導や助言を受けることができる。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、全員の口腔ケアを実施し、磨き残しがないようにチェックしている。治療が必要な場合は、訪問歯科と連携し適切なケアができるようにしている。義歯は週3回ポリドントに浸し、消毒・洗浄に努めている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表の活用で1人ひとりのパターンに合わせた排泄の声かけ・誘導を行い、失禁を減らすように努めている。 | 日中はトイレでの排泄が支援され、現在は全員リハビリパンツを使用されている。今年度も排泄支援をサポートするための研修会(大腸・肛門科クリニックで開催)に新人職員が参加し、その後ホームで共有の機会が持たれている。排泄用品を自身で始末される方もおられ、その方が使用されるトイレの汚物入れは、臭気確認を行いながら蓋を開け、入れやすいように配慮されている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を活用し、排便の有無・量・形状を確認し、水分補給や活動量を把握して、必要に応じて下剤の使用や腹部マッサージでスムーズな排便ができるように支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 一日おきの入浴を基本としているが、本人の希望に合わせた入浴支援を行なっている。又、季節を味わえる柚子湯やミカン湯等は入居者全員が味わえるようにしている。 | 「ゆっくりとした入浴が一番！」と管理者は語っており、寛げる入浴支援を心がけ1日おきや、体調などによっては、着替えや清拭を行い、中2日など状況によって対応している。拒否の場合は声かけを工夫しながら、時間をずらしたり翌日に行くなど臨機応変な支援をしている。季節湯支援時は全員が楽しめるよう、数日間行われている。 | 入居者のペースで寛げる入浴が支援されており、脱衣所に置かれた排泄法品についてはクロスをするなど、職員のひと工夫に期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調に応じて居室にて休息をとって頂き、居室の室温・湿度管理も行なっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人記録ファイルに処方箋を綴じて、薬の目的や副作用についての理解を深めている。前回の処方箋と照らし合わせ、変更があった場合申し送りノートやミーティングで職員全員に伝達し、確実な服薬管理ができるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人が出来る事・やりたいこと・好きな事を把握し日常生活に取り入れるようにしている。又、散歩や行事参加等で気分転換も行なっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買物やドライブの希望がある時は時間を設けて一緒に出掛けたりしている。又、季節を感じられるような外出(初詣、お花見、ほたる観賞等)も事前に家族やボランティアに連絡し、協力して頂きながら外出支援を行なっている。 | ホーム玄関からの眺めは高い裏山が季節に応じ樹木が色を変え、入居者の散歩を更に楽しみなものにしている。今年はADLの低下に伴い外出時の移動は車椅子利用が多くなったが、地域ボランティア(車椅子操作)や、トラック所有の家族が車椅子を運んでくれるなど多くの方の協力で管理者は感謝を語っている。交流センターで開催された秋まつりには、今年4名の入居者が参加されたが、座る場所も確保されているなど、地域の温かい協力が得られている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望があれば家族と相談し、少額を所持できるように支援している。自己管理が難しい方は、預り金として保管し必要時に使えるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は本人の希望があれば、いつでもかけることができるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を味わえるよう、お雛様・五月人形・七夕飾り等をホールに飾ったり、庭に咲いた花を活け季節を目で楽しめるようにしている。 | 手作りホストが迎えてくれる玄関から入ると、家族からの要望に応じた写真付きの職員紹介掲示が安心感を与えている。入居者が食事をはじめ日中の殆どを過ごすリビングホールには、畳スペースも設けられ、ホームに遊びに来てくれた保育園児と一緒に制作した手形の壁面は愛らしく、入居者や来訪者の笑みを誘っているようである。また、家族や職員の持ち寄った庭先の花が季節感を出している。夏の暑さや気温の下がる時期など、職員は入居者の体感温度に応じた室温管理に努めている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールや和室、ソファで居心地よく過ごして頂けるように、利用者同士の相性も見ながら居場所作りを支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族の写真や使い慣れた物を持ってきて頂き、安心して居心地よく過ごせるような空間作り心がけている。 | ゆとりのある広さと掃き出し窓が付けられた居室は、圧迫感もなく外を眺められ心落ち着く空間である。担当者を中心に掃除や物品・家具の配置などが検討され、衣替えには家族の協力も得られている。居室には洗面台が設けられているが、鏡があることで不穩になれる方にはカバーをするなど、個々に応じた環境が整備されている。職員は日々の換気や天候の良い日は布団を干し行い安眠へ繋げている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者1人ひとりの出来る事を把握することに努め、洗濯物たたみ・野菜の皮むき・テーブル拭き・お盆拭き等出来る事を手伝って頂いている。 | | |